

<平成29年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

千葉県 千葉市立轟町中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等）を設け、
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成29年9月13日 (水)
- 場 所 : 千葉市立轟町中学校
- ク ラ ス : 2年A組 (37名)、2年C組 (37名)
- オリンピアン : 平野 早矢香 先生 (卓球)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・平野先生からオリンピックバリューについて簡単に説明した後、今日の授業では、全力を尽くすこと、仲良く取り組むこと、尊敬の心を持つことを心がけてほしいと伝え、準備体操へ移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・3チームに分かれて8の字跳びを実施。90秒間に跳べた回数を競う。各回実施後、各チームから回数を発表し、より多く跳ぶために作戦タイムを設けて話し合う。

4. まとめ



・8の字跳びでは全チームが全力で取り組んでいたことがよかったと伝え、座学の時間では平野先生の経験を通してオリンピックバリューについて詳しく説明すると予告し、授業終了。

■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・平野先生から座学の時間ではオリンピックバリューについて更に深く考えてほしいと授業の目的を確認。
- ・幼い頃からの夢だったオリンピックへ出場し、メダルを獲得するまでの過程で大切にしてきたことを、平野先生の経験とオリンピックバリューをつなげながら説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- ・発問：自分の夢や目標を達成するために実践したい、意識したいオリンピックバリューを考えよう。
- ・発表：日々の練習を大切にする、昨日の自分を超越する(エクセレンス)、皆で協力する、ライバルと切磋琢磨する(フレンドシップ)、感謝の気持ちをもつ、相手の気持ちを敬う(エクセレンス)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・毎日頑張ったことは必ず自分の成長へつながるので、夢や目標に少しでも近づけるように努力してほしいと伝える。
- ・オリンピックバリューは難しいことではなく、意識すれば実践することができるので、学んだことを今後活かしてほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成29年9月14日 (木)
- 場 所 : 千葉市立轟町中学校
- ク ラ ス : 2年D組 (37名)、2年B組 (37名)
- オリンピアン : 桧野 真奈美 先生 (ボブスレー)
- 授業のながれ: 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・簡単な自己紹介の後、オリンピックシンボルの意味を説明し、この2時間を通してオリンピックについてよく知り、オリンピックバリューを体感してほしいと授業の目的を確認。運動の時間は全力で取り組むことを約束し、準備体操へ移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・3チームに分かれてソリリレーを実施。2人組を作り、1人がバスマットの上にしゃがみ、もう1人が帯状の紐を腰に巻いて10m先のラインまで引っ張る。マーカーをソリが越えたら役割を交代してスタート位置まで戻る。各回終了後、

4. まとめ



・ソリリレーに全力を尽くしてくれたことがとても感じられ、また、お互いに思いやりを持って、助け合うこともできていたと伝える。それぞれの役割の中で工夫してくれたことがとてもよかったと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・簡単な自己紹介の後、運動で話した3つのバリューについて、自分に置き換えて考えてみようと授業の目的を確認。自身のバリューについて説明し、自分の夢や目標を考え、それを達成するためにできる3つのバリューとは何かを考えようと問いかね、グループワークへ移る。

3. グループワーク



発問：自分の夢や目標を達成するために活かせるオリンピックバリューについて考える。
 発表：最後まで諦めない、継続して努力する(エクセレンス)、仲間と協力する、人のいいところを取り入れる(フレンドシップ)、相手を尊重して感謝する、相手を信じる(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・3つのバリューが日常生活の中で大切なものであると感じてほしいと総括し、東京2020大会では世界中の人達が日本に来る貴重な機会なので、自分に何が出来るかを考え、行動してほしい。また、失敗を恐れず、何事にも挑戦する勇気をもってほしいと伝え、授業終了。



■ 集 合 写 真

2年A組



2年B組





■ 集合写真

2年C組



2年D組





■ 記念品贈呈

2年A組



2年B組



2年C組



2年D組



■ 証明書贈呈

